

化学工学会関東学生会第2回企画

理系就職の達人を目指して
～進学、就職活動総合討論会～

企画：慶應義塾大学柘植・寺坂研究室
司会：柘植研究室 修士2年 田村和也

議事録

1. なぜその道を選んだのか？

1-1 就職の時期（学部卒、修士卒、博士卒）をどのように決めた？

1-2 行きたい会社（大学）をどのように絞るか？業種から？職種から？

1-3 内定を得るために必要なことは？

1-1

- 流れ、雰囲気（修士に行くものだという考え）
- 研究教授から得られるものが大きい、研究を通して力（問題発見能力、自己解決能力）をつけたい
- 就職において、学部卒は相手にしてもらえないから
- 研究を純粋にしたい
- 社会人となった2年間でも力がつくであろうが、大学での2年も大きい。幅広く学ぶ良い2年間となるであろう

博士に進む人は、

- やりたくない仕事をさせられることが修士卒にはある
- Academicで活躍したい
- 自分の研究を純粋に続けたい

博士に行かない人は

- 就職先が狭まるのではないか
- 経済的理由
- 早く社会にでて活躍したい

1 - 2

- OB 訪問
- 現場をいろいろ見ること
- 業界を絞って活動を始めた
- リクルーターの雰囲気
- 自分の専門分野に当てはまるか
- 社風、雰囲気の違い←実際に自分の目で見て
- 最終的にはフィーリングで見極める

結局は、自分で行動して、多くの人から話を聞いて見極めましょう。
先入観だけを持たずに行動すること。行ってみたらイメージと違う場合が殆どです。

1 - 3

- 運、元気、熱意
- 自分を知る。会社を知る。
- 自分を知る。他人を知る。それを比較して相対的な評価をする

Q&A

Q：なぜ、元気・運が必要なのか？

A：就活を通じて自分を見てくれた方に会えた、元気があれば何でもできる

Q：スペシャリストでは博士？でも、今の世の中、博士はスペシャルな博士でなく、ジェネラルな博士になる必要がるはず。どうですか？→博士全般の方へ。

A：今は一つのことだけをやっている時代ではない。一つスペシャルな技術を持ちつつ多くのことができるジェネラリストでなければならない。

広い分野を知っていないと博士にはなれないよ！！

Q：海外で仕事をしたい人に関して、海外で仕事をしたのか、研究をしたのか？

A：海外で仕事をしたい。海外での仕事から文化を通じて、人生に生かしたい
国内で勉強してから海外で仕事をしたい

Q：ジェネラリストって具体的な考えとは？ → 博士全般の方へ

A：オールマイティである必要はない。でも自分が見ている、関連するすべてにスペシャリストであれば、それがジェネラルになる。



日野さんの意見

スペシャリスト・ジェネラリストについて

→上の意見と同じ。多くのことに興味を持ち、多くのことを知っていて、かつ何か自分の強み（スペシャルな部分）を持っていることが重要。

ちなみに、日野さんの答えは

- 1-1 エンジニアになりたかった。→ 大学の先生に学部 2 年次のとき修士に行くことを薦められた。→修士のとき博士の誘いがあったが断った。理由は博士は研究者になってエンジニアになれないといわれたので
- 1-2 有機化学の会社は自分を必要としていることだから…。化学工学の知識を生かせると思った。（他に化学工学の人がいないから）
- 1-3 後で話します。

2. 就職活動で研究紹介をどのようにしたらよいか

～学会発表や研究室での発表と何が違うのか？

気をつける点は何か？

学会発表：専門用語を使える

研究紹介：専門用語を使えない

学会発表：clarity（明確さ）、originality（独創性）、significance（重要性）を意識して発表

研究紹介：上の3つ＋研究に取り組む姿勢（態度）を見られている。さらに、事務系の仕事の就きたい人は企画力、プレゼン力をアピールすべき（研究方針を決めて先生にアピールした、など）

学会発表：あらかじめ作られたものを使う、研究の成果を発表する

研究紹介：研究から得たもの→問題発見能力、解決能力を見られている
中には突然予想していない方法で説明する→臨機応変さが必要

学会発表：研究を深く発表する

研究紹介：概略を説明する

研究紹介では、相手が専門知識があることはほとんどないので、誰にでもわかるように説明することが大事（自分の両親にわかってもらう練習をする）

また、話す相手が誰なのか意識して行う。つまり、相手によって話す内容、レベルを変える必要がある。

最後に、研究紹介を通して「人」を見ていますので、研究紹介も自己PRだということを忘れずに！！

Q&A

(意見)：Dグループで問題解決能力について意見がでたが、会社の人事はこれを求めています。これを織り交ぜて話せばよいと思います。

(意見)：就職後、研究が使う機会がない。日ごろから研究を通じて取り組む自身が重要であることがあります。

(意見)：広い分野における人と話をすることは、自己解決能力など、研究に限らず多くのことにつながると思います。

Q：研究要旨（面接の前に提出するもの）はどのようにつくったら良いのか？学会に提出したアブストで構わないのか？

A：まずは誰がその要旨を見てもわかりやすいものにする。図やグラフを用いながら書く。ぱっと見てすぐにわかり、読んだらさらに理解が深まる要旨が最高。学会のアブストをそのまま提出しないように。

また、研究要旨は事前に分かる人が読んで内容を理解するため。面接で内

容を理解するという作業を省くため。欲しい部門の部長クラスがあらかじめ読んでいます。人事は見えていない可能性が高い。



日野さんのアドバイス

相手を見て研究の話し方を変えることは大切。だったら、面接時にどんな方なのかをあらかじめ聞いてみるのもいい。

むしろ、自分の親や分野が違う人、さらには文系などの人に研究を話してみる。これで相手がわかったのなら問題ない。理解されるまで訓練が必要。

日記をつけてみるとよい。

また、常に逆の立場に立って考えることが大事。例えば面接中に相手の顔を見て話す（←自分が面接官だったらそっぽ向いて話されると気分悪い）

以上

何か質問等ございましたら

慶應義塾大学柘植研究室修士2年 田村和也まで

kazuya_t0701@hotmail.com

